

# 岐阜県教職員組合・岐阜県教職員組合連絡会議(組合連)勤務実態調査結果(2003年度～2018年度)

組合連(揖斐郡教職員組合・岐阜県教職員組合・高山市教職員組合・揖斐郡教職員組合・養老郡教職員組合)

## 調査年度・月・集計人数

	2003	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
調査月	10月	10月	6月	6月	6月	6月	6月	9月	6月	6月	6月	6月	6月	6月	6月
調査人数	1213	1334	1559	1271	2028	2221	1556	1557	1717	1981	1668	1765	1601	1578	1403

※当初は10月調査で始めたが、諸行事で忙しい月であることなどから6月を調査の中心とした。

調査方法変更

※調査期間はすべて1週間

※2017年度と2018年度は調査方式を変更した。

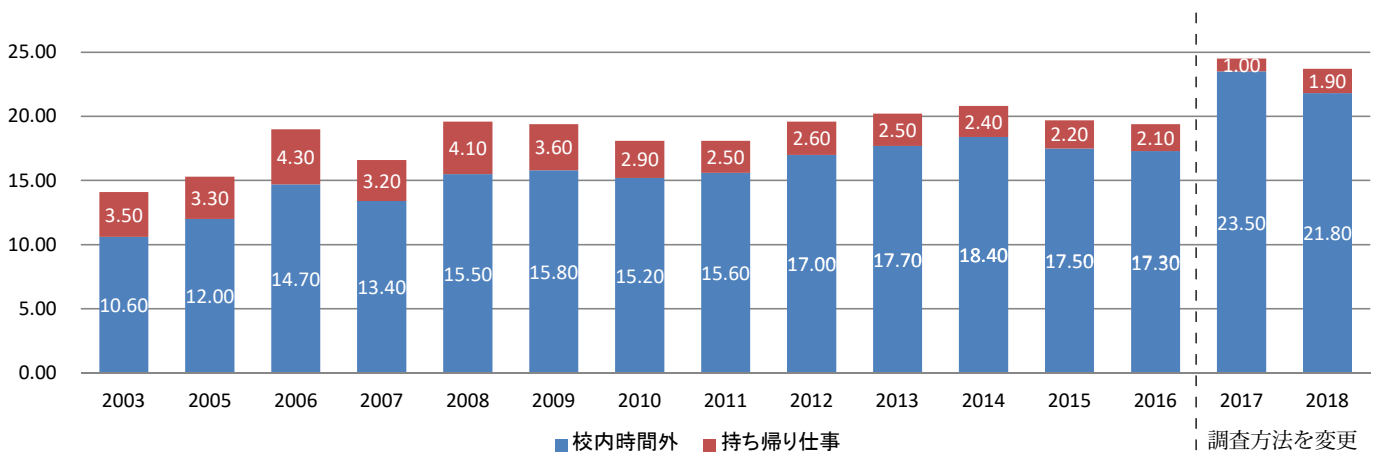
2016年度まで 勤務開始前、終了後、持ち帰りの仕事を分けて報告。(例:開始前60分、終了後90分、持ち帰り60分)

2017年度から 出勤時刻、退勤時刻を報告。持ち帰り仕事は分けて報告。(例:出勤7:45、退勤19:30、持ち帰り60分)

## 一人あたりの1週間の時間外勤務(全校種平均)

	2003	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
校内時間外	10.60	12.00	14.70	13.40	15.50	15.80	15.20	15.60	17.00	17.70	18.40	17.50	17.30	23.50	21.80
持ち帰り仕事	3.50	3.30	4.30	3.20	4.10	3.60	2.90	2.50	2.60	2.50	2.40	2.20	2.10	1.00	1.90
合計	14.10	15.30	19.00	16.60	19.60	19.40	18.10	18.10	19.60	20.20	20.80	19.70	19.40	24.50	23.70

調査方法変更



調査方法を変更

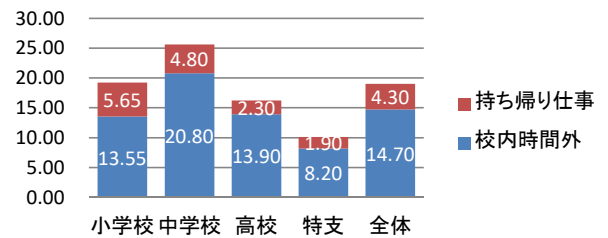
## 一人あたりの1週間の時間外勤務(校種別平均)

### 2006年度(平成18年度)

1週間(時間)

	小学校	中学校	高校	特支	全体
校内時間外	13.55	20.80	13.90	8.20	14.70
持ち帰り仕事	5.65	4.80	2.30	1.90	4.30
合計	19.20	25.60	16.20	10.10	19.00

2006年度(平成18年度)

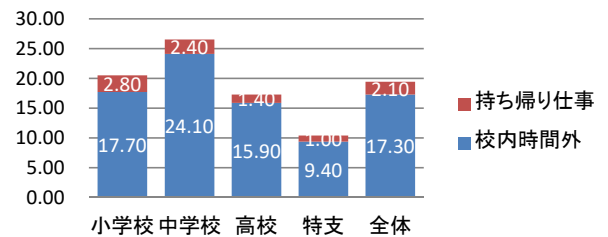


### 2016年度(平成28年度)

1週間(時間)

	小学校	中学校	高校	特支	全体
校内時間外	17.70	24.10	15.90	9.40	17.30
持ち帰り仕事	2.80	2.40	1.40	1.00	2.10
合計	20.50	26.50	17.30	10.40	19.40

2016年度(平成28年度)



2006年度と2016年度の増減

	小学校	中学校	高校	特支	全体
校内時間外	130.6%	115.9%	114.4%	114.6%	117.7%
持ち帰り仕事	49.6%	50.0%	60.9%	52.6%	48.8%
合計	106.8%	103.5%	106.8%	103.0%	101.6%

文科省(教諭) 107.69% 108.88% ※資料Ⅱの表より計算(文科省は学内のみ)

## 一週間あたりの時間外勤務・人数割合(全校種)

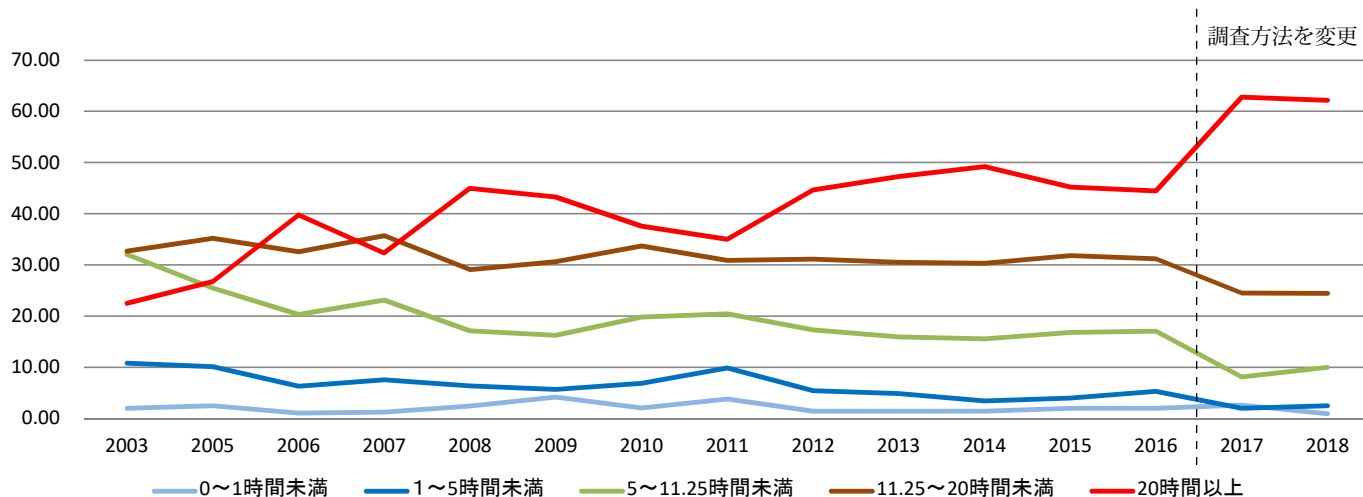
1週間(%)

	2003	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
0～1時間未満	1.98	2.47	1.03	1.26	2.41	4.19	2.04	3.79	1.46	1.41	1.44	2.00	2.00	2.60	0.93
1～5時間未満	10.80	10.11	6.29	7.55	6.36	5.67	6.90	9.89	5.42	4.85	3.42	4.00	5.31	2.00	2.49
5～11.25時間未満	31.99	25.47	20.33	23.13	17.16	16.25	19.80	20.42	17.30	15.95	15.59	16.80	17.05	8.10	9.98
11.25～20時間未満	32.73	35.21	32.58	35.71	29.09	30.62	33.72	30.88	31.16	30.49	30.34	31.80	31.17	24.50	24.45
20時間以上	22.51	26.74	39.77	32.33	44.97	43.27	37.55	35.02	44.67	47.30	49.22	45.20	44.47	62.80	62.15

※11.25時間以上(月45時間以上に換算)＝健康破壊ライン

調査方法変更

※20時間以上(月80時間以上に換算)＝過労死ライン



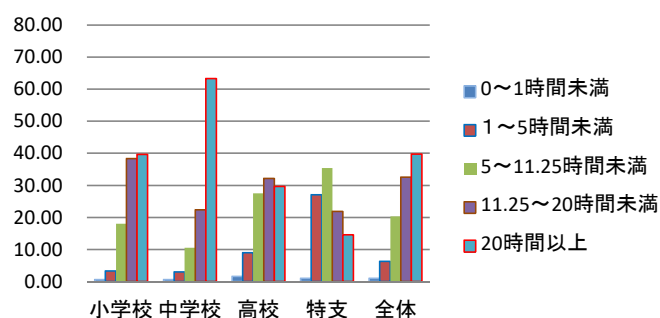
## 一週間あたりの時間外勤務・人数割合(校種別)

### 2006年度(平成18年度)

1週間(%)

	小学校	中学校	高校	特支	全体
0～1時間未満	0.66	0.57	1.62	1.04	1.03
1～5時間未満	3.29	3.00	9.03	27.08	6.29
5～11.25時間未満	18.08	10.57	27.55	35.42	20.33
11.25～20時間未満	38.36	22.33	32.18	21.87	32.58
20時間以上	39.59	63.33	29.63	14.56	39.77

### 2006年度(平成18年度)

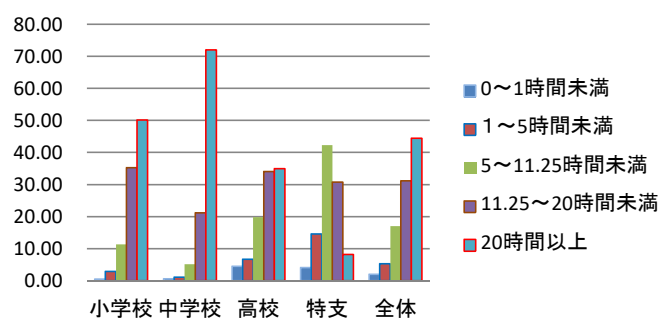


### 2016年度(平成28年度)

1週間(%)

	小学校	中学校	高校	特支	全体
0～1時間未満	0.48	0.57	4.47	4.12	2.00
1～5時間未満	2.88	1.15	6.70	14.61	5.31
5～11.25時間未満	11.36	5.16	19.83	42.32	17.05
11.25～20時間未満	35.20	21.20	34.08	30.71	31.17
20時間以上	50.08	71.92	34.92	8.24	44.47

### 2016年度(平成28年度)



## ■学校種別・男女別

	総数	男性	女性	不明
小学校	671	227	444	0
中学校	386	241	141	4
高校	574	347	213	14
特支	221	48	114	59
不明	1	0	0	1
合計	1853	863	912	78

## ■年齢別・学校種別

	小	中	高	特支	不明	合計
20代未満	4	0	3	0	0	7
20代	152	114	124	53	0	443
30代	128	106	121	46	0	401
40代	157	71	110	30	0	368
50代	201	86	163	30	0	480
60代	27	9	48	4	0	88
不明	2	0	5	58	1	66
合計	671	386	574	221	1	1853

1057

1181

## &lt;全体&gt;

## 1. 学校の指示による勤務時間の入力(パソコン・手書き・タイムカード等)を正確にしていますか

	全体	小	中	高	特支	20代	30代	40代	50代	60代	男性	女性
①ほぼ正確にしている	79.1%	78.7%	81.4%	75.3%	86.2%	77.1%	74.6%	76.8%	84.5%	80.7%	77.9%	79.8%
②少なくなるようにしている	12.0%	12.3%	10.6%	13.5%	9.2%	15.4%	12.7%	13.1%	9.7%	3.4%	12.7%	11.4%
③あまりしていない	5.8%	6.0%	6.4%	5.9%	3.2%	5.0%	10.4%	6.8%	3.2%	2.3%	5.7%	6.1%
④していない	1.9%	1.9%	1.0%	3.0%	0.5%	1.8%	1.5%	2.5%	1.5%	5.7%	2.7%	1.3%
⑤入力の指示がない	1.3%	1.0%	0.5%	2.3%	0.9%	0.7%	0.7%	0.8%	1.3%	8.0%	1.0%	1.4%

中・特は「ほぼ正確」が8割を超えるが、「少なくなるように」も1割以上ある。

50代60代は「ほぼ正確」が8割を超えるが、「少なくなるように」「あまりしていない」は若い世代ほど高い。

## 2. 現在学校ですすめられている勤務時間短縮のための具体的な指導・検討の内容(複数回答)

	全体	小	中	高	特支	20代	30代	40代	50代	60代	男性	女性
①会議時間の短縮	47.6%	49.0%	44.8%	47.0%	50.7%	40.0%	49.1%	48.9%	53.1%	47.7%	47.2%	48.4%
②会議の回数・種類の削減	39.0%	42.5%	42.7%	32.6%	39.8%	28.2%	37.9%	45.1%	45.0%	43.2%	41.7%	37.5%
③「ノー残業デー」の徹底	28.0%	28.5%	28.5%	23.3%	38.9%	32.1%	24.9%	25.5%	28.3%	25.0%	28.3%	27.6%
④保護者への協力要請	13.9%	17.6%	14.2%	11.0%	10.4%	12.6%	13.5%	13.9%	15.8%	17.0%	14.1%	14.3%
⑤校内組織の見直し	15.5%	12.8%	13.5%	19.2%	19.0%	15.1%	19.0%	17.7%	13.3%	11.4%	17.8%	14.1%
⑥事務の見直し	14.1%	13.9%	9.1%	17.6%	14.9%	12.9%	16.0%	14.7%	14.0%	14.8%	17.4%	11.6%
⑦外部人材等の活用	17.0%	11.9%	14.8%	26.7%	11.8%	14.2%	20.7%	17.1%	17.7%	18.2%	18.7%	16.2%
⑧部活動の制限	22.1%	4.5%	44.3%	33.3%	8.6%	21.2%	28.9%	20.7%	21.0%	21.6%	29.2%	16.3%
⑨校内協力体制	14.2%	13.9%	12.4%	16.7%	12.2%	14.9%	17.0%	13.3%	12.5%	17.0%	16.0%	13.0%
⑩教室掲示の見直し	21.6%	45.0%	21.5%	1.4%	3.6%	20.5%	23.9%	23.1%	22.3%	18.2%	20.5%	24.1%
⑪研修等の見直し	17.5%	14.8%	13.7%	22.5%	20.8%	10.6%	16.7%	24.5%	18.3%	25.0%	19.9%	15.0%
⑫行事等の見直し	26.2%	32.6%	22.0%	23.3%	21.7%	16.5%	27.9%	35.6%	27.3%	28.4%	27.3%	26.1%
⑬管理職の働きかけ	21.5%	23.8%	22.0%	18.1%	22.2%	20.5%	20.7%	23.9%	21.0%	23.9%	24.2%	18.9%
⑭自分の工夫	28.0%	27.0%	29.0%	26.5%	34.4%	31.4%	27.7%	28.0%	23.3%	33.0%	28.6%	26.8%
⑮その他	5.1%	2.8%	4.7%	8.2%	4.1%	3.6%	5.7%	5.7%	4.6%	11.4%	5.7%	4.7%

すべての校種で会議時間の短縮への要望が高い。特に小中は会議制限、小は教室掲示・行事の見直しが高い。

30代40代は他世代と比べて多項目への要望が強い。若い人はノー残業デー、自分の工夫の割合が高い。

## 自由記述（抜粋）

### 1. 学校の指示による勤務時間の記録を正確にしていますか

ノー残業デーには、ある程度の時間になるとタイムカードを押すようにしています。／当月を過ぎてから入力フォームが配られ指示されている。報告のためだけの入力。意味を感じない。／80時間を超えないようかなり管理職が言うので、正しく入力していない人が多い。／正しく記入するととんでもないことになる。／実際は100時間以上働いたが80時間以下になるよう操作した。入力の意味はなく、かえって仕事を増やしているだけ。／正直にチェックしていたら、8時、16時30分に押すものだと言われた。言われた朝は、運動会練習で忙しく、6時50分頃に来た日だった。／出勤・退勤のボタンしか押さない人が多い→正確なデータではないので意味がない。／残業手当が付かないのでタイムカードの必要を感じない。／勤務時間を気にしない、やりたい人はやればよいという雰囲気がある。／持ち帰りもあるので意味が無い。／面談しても自分の仕事量は変化がない。／入力の必要性を感じない、管理職の業務を増やしているだけ。／入力することが自分たちのためになっていない。作業が増えている。／何のための入力か分からない。多いと早く帰るよう言われるが、仕事量が変わらないため、帰れない。／土、日を入れてない。でも、入れるのは面倒くさい。／スマホで入力できるというのは、正確性に欠ける。ちゃんと活用するという気がないデータとしか考えられない。タイムカードが一番確実ではないか。

### 2. 勤務時間短縮のための具体的な指導・検討について

教員を増やす。／持ち時間数の軽減。／全体的な業務の削減。／学習指導要領の見直し、小学校で英語とプログラミングいらない。／30人学級の実現。

### 3. 部活動にかかわって

手当が減ったから時間が短くなると思うのは見当違い。働いた時間分の給与があれば文句はない。／部活をもっとやりたい教員・生徒もいる。状況に応じて活動できるようにして欲しい。

### 5. 現在進められている「働き方改革」について、思うところ

結局仕事内容自体を見直さないと、負担は減らせない。その仕事内容の見直しは、管理職たちだけではなく、教員全員によって意見を出してもらわなければならない。その意見をまとめることも負担になるのかもしれないが、どこかでそのことだけ話し合う機会を一日つくとか（比較的余裕のある時期 生徒が来ない時期など）、意見をまとめるのも、各部会で部長に任せるのではなく、まとめる。教員によって必要だと思う仕事、必要だと思わない（なぜやっているのかわからない）仕事がバラバラである。若者は特に、「若いから」と言われられないがなんとなくそういう風潮があり、気を遣って仕事を引き受けたり、頑張ってしまうと労働時間が多くなり、疲労がたまる。経験も浅いので、やり方も分からず、周りの先輩たちも自分の仕事で精いっぱいなのでなかなか手助けしないし、助けも求めにくい。部活動も、結局家庭がまだない若者、または部活動指導に力を入れている教員が休日の指導時間を費やしている。中学校のように、引率もできる外部コーチを積極的に導入するとか、外部コーチも各顧問に丸投げではなく、登用制度を設けるとか（知識不足ですみません）、部活動制度自体、抜本的に改革しないと休養はできないし、教員になりたいと思う子どもたちも必然的に減っていくだろう。部活動を中心に行いたい先生も見えないと思うが、それは希望制でやってもらえばよいとおもう。／難しいところですが、私たち自身もあきらめる勇気、やらない決断をしなければ何も変わっていかないよな一と思っています。あとは、国としての要求（英語など）がどんどん大きくなっている。支援の子がどんどん増えているのに教員減ではいろいろ無理があると思います。／まず、法律を守る努力をしてほしい。例）休憩時間としている時間に業務を入れないように。入れた場合には、夏休みなどに、取れない休憩時間を当てたらどうか。／早く帰れというだけで、細かな部分で圧力を掛けられ、仕事は減らない。／働き方改革というのならば、①教員の増員（必須）②給与の改善（必須）③学校として対応すべき事柄の線引き（学校で面倒見れること、無理なこと）すべての子を受け入れるのには限界がある。／部活動手当を下げた所で、活動時間は変わらない。子どもたちがやりたいと思っている以上はそれに応えるべきだと思うが、手当てを下げられたら、教師のモチベーションは下がる一方。お金のためにやっているわけではないが、不満だけが募っていくばかり。／土曜授業の強制は良くない。授業者の急な病気や家庭の事情により、どう対処したらいいかわからない。コンプライアンスの名のもとに人の自由が奪われつつあります。もっと臨機応変に、安全、安心する職場環境にして欲しい。毎日、処分処罰されると気にして働いていて、恐怖さえ覚える。デジタル、AIなんか導入すればさらに加速します。自殺者も増えます。